



・発行者・
京都障害者
スポーツ振興
会

題字 芝田 徳造

『第28回 パラアーティスティックスイミング フェスティバル』に参加して

2019.5.12(日)京都市障害者スポーツセンターのプールにて

チーム『ゲキタマ』堤将太郎 君代(母)

『そうだ！京都に行こう！』
プール指導の直井先生からシンクロの全国大会の話聞いた時には、はじめは冗談かと思いましたが、プールは楽しいけれどそんな大冒険は無理！・・・まさかこんな体験ができるとは思っていませんでした。

5月12日、『第28回パラアーティスティックスイミングフェスティバル』に初めて参加をしました。昨年からの練習の成果を「ウルトラソウル」(だから激魂【ゲキタマ】)の曲に合わせて水中で円を描いたりジャンプしたり笑顔満開で演技をすることができ、終わった瞬間親子で「やった！」という何とも言えない感動がこみあげてきました。

息子は現在25歳、毎日近くの通所施設に通っています。生ま

れつきの心臓病があり生後4か月の時に心停止し後遺症により脳性麻痺に。緊張が強く手足も自由に動かすことが困難で普段は車いすでの移動です。全介助の生活の中で、はじめはリハビリのつもりでプールに参加をしていました。普段の生活では緊張で思うように動かせないからでも、水中では無重力のような体験ができリラックスするので、表情も緩くなります。親としてはこんな表情を見ることが小さな達成感を感じていました。

しかし、プール指導の先生方はリハビリをするという感覚ではなく、障害を持った子どもでも水を楽しみ泳ぐことを目標としていました。そして楽しむこと。直井先生たちの真剣さに子どもたちはまず楽しみはじ

め、親は後からやっと「京都行き」を決断した感じでした。新幹線の手配から使用する駅のエレベーター確認などじわじわと現実的になっていきました。



シンクロメンバーは5人、重度の障害もありなかなか全員そろっての練習はできません

でした。冬の間は学校の体育館を借りて練習、車いすではスムーズに動けず水中ではもつと難しいのかなと手探り状態の中でも、メンバーと息を合わせ形になっていくと気分もアップし、帽子におそろいの星を縫いつけて、踊りにも力が入ってきました。何より久しぶりにチームワークというものを感じわくわくした気持ちになりました。それは本番の時の緊張感

と達成感と感動にもつながっていきました。

本番にむけて、息子は普段は吸引が頻繁になることが多く大丈夫か？と心配がありましたが大うつぶせのリハビリも毎朝自主トレし、心肺機能は以前よりアップしたように感じ、体調を大きく崩すことがなくなったのはびっくりです。重度な障害があっても生活に大きな目標ができてその達成のために積み重ねていくことがとても重要だと実感しました。

京都までの道のりは決して楽なものではなく、苦勞も経験しましたが、公共機関での旅は大きな自信となりました。

(裏面へ)



行事予定	6月	11(火)	丹波障害者スポーツのつどい	丹波自然運動公園	来月は つどい 550
		16(日)	第39回全京都障害者総合スポーツ大会 総合開会式・卓球バレー大会	島津アリーナ京都(京都府立体育館)	
		23(日)	京丹後障害者スポーツのつどい	京丹後市弥栄社会体育館	
			城陽障害者スポーツのつどい(406回)	サン・アビリティーズ城陽	
		29(土)	京都府障害者スポーツ指導者研修会1-①	同志社大学京田辺キャンパス	
			与謝野町スポーツのつどい	加悦地域公民館	
	7月	30(日)	京都府障害者スポーツ指導者研修会1-②	同志社大学京田辺キャンパス	
		7(日)	第1回全京都障害者ポッチャ大会	京都市障害者教養文化・体育会館	
	9(火)	丹波障害者スポーツのつどい	丹波自然運動公園	7 / 13 第2日曜	
京都障害者スポーツ振興会ホームページ TEL/FAX 075-712-7010 http://www.spo-shin.net/ [2018年リニューアルしました!]					

